

# 令和5年度 名古屋市学力向上プラン

名古屋市教育委員会

## 学校教育の核である『授業』を中心に据えた学力向上

『第五版』体験的な活動を取り入れた問題解決的な学習過程

### 1 『第五版』を「共通の拠り所」として、授業改善を図る。

- (1) 名古屋市校長会・教頭会と目標を共有して、『第五版』を拠り所とした授業の日常化を推進する。
- (2) 市教委主催の各種研修会において、年間を通じて『第五版』を活用し小中の学びの連続性を意識した授業改善を推進する。
- (3) 授業改善を一步進める「授業づくりの補助資料」の積極的活用を推進する。

### 2 成果と課題を分析し、指導の重点を絞って授業力向上を図る。

- (1) 前年度の学校訪問等での共通評価表の結果や助言内容等を基に、今年度の指導の重点を明示し、各学校に周知する。
- (2) 市教委及び教科等指導員が評価した個々の課題を認識させ、教師の授業力向上を図る。
- (3) 積極的に校内研究を進める学校を「公募制校内研究支援事業」で、継続的に支援する。

### 3 全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果等を分析し、プランを見直す。

- (1) 市教委主催の「学力向上担当者研修会」において、各校の結果を分析し、『第五版』を拠り所とした具体的な改善策を考案させる。
- (2) 校内研究のまとめや、各校で実施している CRT 学力検査等の分析結果を反映させる。

## 市内児童生徒の学力の向上

## 豊かな人間性と確かな学力を身に付けた子どもの育成

### 授業改善

- 1 『第五版』を拠り所とした授業の質的な向上と日常化を図る。  
※「授業づくりの補助資料」を積極的に活用する。
- 2 共通評価表を検証軸とした授業研究会を積み上げる。
- 3 互いの授業を見せ合い、子どもを主体的にさせる授業を共有する。  
※ 絞り込まれた実践・共通理解が研究の強い推進力につながる。

### 学習環境の整備

- 1 特別な支援を必要とする児童生徒の学びを充実させる。  
※ 特別支援教育支援員等を活用する。
- 2 1人1台端末を授業で効果的に活用し、子どもの学びを深める。  
※ 授業改善を置き去りにせず、ツールとして適切に活用する。
- 3 外国語教育への興味関心を高める。  
※ エンジョイ・イングリッシュをはじめとした各種事業を展開する。

### 家庭との連携

- 1 意欲をもって家庭学習に取り組ませる。  
※ 成就感を味わう宿題を工夫する。
- 2 家庭における子どもの基本的な生活習慣を形成する。  
※ ICTの適切な使い方を確立する。
- 3 就学相談や教育相談をととして個に応じた学びの場を保障する。